

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02682

研究課題名(和文) ムスリム居住地域で進行する主体的なイスラーム教育改革に関する地域間比較研究

研究課題名(英文) Interregional Comparative Study on Independent-minded Islamic Education Reforms Proceeding in Muslim Residential Areas

研究代表者

日下部 達哉 (KUSAKABE, TATSUYA)

広島大学・教育開発国際協力研究センター・准教授

研究者番号：70534072

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、参画した各研究者によって「イスラーム教育がいかに主体的に改革を行っているか」、が明らかにされてきた。情報メディアが発達した現在、ムスリムたちにとって宗教教育の役割はきわめて重要になってきている。多くのムスリム居住地域では、西洋出自の情報がメディアを通じ子どもや若者に影響を与えているため、各地で展開するイスラーム教育は、その土地をカバーする教育制度や社会に合わせて常に改革・改変を繰り返す必要に迫られる。この研究では、そうしてできたアジア・アフリカのイスラーム教育の地域的多様性について明らかにしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究においてよく登場する言葉が「マドラサ」である。イスラーム教育を施す場所として最も知られている場所であり、また概念である。このマドラサをめぐる報道や言説をみた場合、必ずしも適切なイメージが形成されているとは言い難い。メディアに露出してきたマドラサのイメージは、「過激派の温床」といったようなネガティブなものであった。マドラサをめぐる言説は、以上のように不穏当なイメージから抜け出せてはいない。しかし本研究は、生活に根差したイスラーム教育を対象とすることにより、少しでもそうしたイメージを払拭することを目指した。

研究成果の概要(英文)：In this study, each participating researcher has clarified "How Asian and African Islamic education are reforming proactively". With the development of information media, the role of religious education has become extremely important for Muslims. In many Muslim residential areas, information on Western origin affects children and young people through the media, so Islamic institutions are facing a necessity of constantly reform and modification according to the educational system and society that covers the area. This study reveals the regional diversity of Islamic education in Asia and Africa.

研究分野：比較教育学

キーワード：イスラーム教育 ムスリムネス 主体的な教育改革

1. 研究開始当初の背景

今日では、以前にも増して各地域のイスラーム教育の実情を鮮明に伝える研究が増加している。その理由は、社会経済のみならず情報のグローバル化進展に、イスラーム教育が呼応、自ら改革を進めようとし、世界中でその動きが顕在化しているからである。イスラーム教育は近代教育とは異なり就学年齢を問わず何歳からでも始められ、進級も個人の進捗に応じて決められる。またその種類が多様(マドラサ、マクタブ、コーラニックスクール等)でもあるため、受け手は自分に合った形態を選択できる。この制度的柔軟性に助けられ現在、世界各地でイスラーム復興運動に連動した独自性の高いイスラーム教育改革が進行、多彩な地域展開が見られた。例えばインドネシアでは、全国的に週1時間の宗教科目を、アチェ州は独自に週4時間、宗教を教えるなどの改革をしたり、西ジャワ州のバンジャルネガラ県4校のコーラニックスクール(コーラン学校)では、行政単位のみならず、各宗教校が独自性の高いイスラーム教育を提供していることが確認されている。またバングラデシュでも住民ニーズに基づき多数の村で女子マドラサが設立されるなど、多くのモノグラフが知られていた。

既存の一国研究スタイルは、こうしたミクロな動態をよく把握しているが、広大なイスラーム世界からみればその断片が明らかになっていないにすぎなかった。そこで本研究では、これらミクロレベルでの動きに地域間比較研究の枠組みを付与し、イスラーム教育改革の多様性や宗教的統一性について検討、イスラーム教育の基層的な理解を促進、情報や枠組みの共有性を生みだし、さらに「深い比較」を目指す必要を認めた。

2. 研究の目的

本研究では、ムスリム居住地域のイスラーム教育(認可/無認可マドラサ、公教育での宗教教育、その他)における自己認識論、改革理念論、改革実践論に関する調査を実施、主体的な現代イスラーム教育改革の地域的展開を明らかにしようとした。なぜ「主体的」なイスラーム教育改革を調査するかというと、イスラームの側にとり、情報メディアが発達した現在、宗教教育の役割はきわめて重要になってきているからである。多くのムスリム居住地域では、西洋出自の情報ネットなどのメディアを通じ子どもや若者を席巻、これを看過すればイスラームの教えが希薄化するため、各地で展開するイスラーム教育は、その土地をカバーする教育制度や社会に合わせて常に改革・改変を繰り返す必要に迫られるからである。

往々にして「改革」は政府の命令・通達系統を通じて「させられる」、つまり上から降ってくる場合が多いが、先述の通り、ごく狭い範囲でもイスラーム教育の多彩さが存在する以上、それら「主体性」の源泉が何かに着目し、研究する必要がある。そして、地域間比較を通じ、それら地域展開を基層的に理解、知見のネットワークを図り、通奏低音としてのイスラーム教育改革思想を浮き彫りにする。これのため次の三点を現地調査の共通課題とし、地域間比較の素材とした。

3. 研究の方法

まず、研究対象地域として代表者である日下部(協力者モウシュミ)が、研究総括を行いつつ、南アジアのイスラーム教育(インド・バングラデシュ)を調査した。また服部美奈(名古屋大)がインドネシア、見原礼子(長崎大)と丸山英樹(上智大)が欧州(オランダ・ベルギー・ドイツ)、清水貴夫(広島大 京都精華大学)がブルキナファソ、中島悠介(大阪大谷大学)がアラブ首長国連邦、河野明日香(名古屋大)がウズベキスタン、黒川智恵美(在スーダン日本大使館専門研究員 広島大院)がモロッコを担当し、初年度から3年度目にかけて1-3回の現地調査を実施した。

フィールドにおいては、現地文献収集、マドラサや学校の教員にインタビューを実施、また必要に応じ生徒や保護者に質問票調査を行った。また、調査結果を年に一回の科学研究会(対面・オンライン併用型)を開催、全体で共有しつつ、代表者である日下部において、国際比較分析を進めた。地域間比較をさらに深めるため、前年度のシンプルな共通性と差異性析出のための並置比較の精度をさらに上げ、詳細なインタビュー結果の分析、改革理念と実践の根底にある思想部分の地域間比較に着手し、「深い比較」を行うこととした。

4. 研究成果

本書ではまず、アジア、アフリカ、欧州におけるムスリム居住地域で進行する社会・政治環境、情報環境、人間関係の変容を明らかにする、という研究目的を掲げ、研究を推進してきた。事例研究であったため、当然ながらおさえきれていない情報のほうが多い。しかし、それでも事例研究の背後に何があるのかは、合理的に推測できる。

調査対象各国のイスラーム教育は、イスラーム諸国の独立以降、また、グローバル化の進行、テロが頻発した時期以降、変革を迫られ、事実、改革に走った。結果として、イスラーム教育制度としての存続、公教育の一部に残り続けるなど、居場所を確保した。その一方で、宗教的内容は、世俗の概念である市民性とつながるまたは併存するような位置づけをとるようになり、より

平たい存在となるよう、舵をきってきている。

次に、改革の素地となる世界各地のイスラーム教育制度（認可・無認可）の最新情報、改革の担い手、受け手、コミュニティ、政府、宗教権威等のアクターを調査し、イスラーム教育改革を活写、「今日的イスラーム」の創出プロセスを浮き彫りにする、という目的も設定した。で見られた改革の状況は、裏を返せば、宗教権威・運営側には、イスラーム教育として存在を存続させる意思があるがゆえに、形や方法は変えても、イスラーム教育が内包する価値は変えていないということである。ただし、認可か、無認可かという面は多様性がみられ、バングラデシュのコウミマドラサのように公的補助は不要だが、独自性を保ちたい、というケースもあれば、ブルキナファソのフランコ・アラブ学校のように、政府にすり寄って、認可をもらいたいという動きを見せる場合もあった。また、各国の実践からは、イスラーム教育提供側が、現代社会の動きを咀嚼し、それに見合ったイスラーム教育の改革を施し、異文化との接触に備える、過激化を抑える、グローバルな市民性と共存する、といった動きをみせていた。

最後に、との研究を国際比較研究し、地域のコンテクストに沿ったイスラーム教育の地域展開の独自性、また共通性の中に見いだされるイスラーム的統一性について分析を行う、というものであった。イスラームにつきまどっているイメージから来るものだが、イスラーム過激派によるテロの脅威があるため、各国政府をはじめ、人々からのイスラーム教育改革の圧力になっている、つまり、外圧が改革のドライビング・フォースになっていることはどこの国も共通してもっている状況であると考えられる。もう一つの共通性は、宗教教育と市民性、あるいは宗教教育と道徳教育といった、二律背反はしないまでも、重複する部分を持ちながら、異質な面もあることとの距離の取り方であろう。バングラデシュでは、アリアマドラサという、宗教と世俗を同時に教えるユニットがあるが、ウズベキスタンではマハッラという共同体が、宗教教育と市民性教育とののりしろの部分となっていた。また、UAE、ベルギーでは、公的な枠組みの中で市民性や道徳といったものが同時に教えられるような状況がつけられていた。次に、多様性の部分であるが、グローバル経済の進展により世俗の教育も旺盛に多様化し、イスラーム教育も教育市場の一員になった、という事情からくる多様化である。モロッコやウズベキスタンの事例のように、新たにイスラーム教育を立ち上げるようなところもあれば、バングラデシュやUAEのように、それまであったイスラーム教育を変容させて、教育市場の変化に対応しようとしているところもあり、まさに多様化の側面も見られる。

まとめとして、本研究が明らかにしてきたのは、新自由主義の波にもまれながらも、地道で、ときに痛みも伴うイスラーム教育の改革であり、現代社会にイスラームを正當に位置づけること、そして人々がムスリムネスを忘れることがないように、現代における新しい現象、事柄を解釈し、マドラサなどのイスラーム教育施設を通じて、時代に合った新しいイスラーム教育を提供し続けようとしている姿であった。

なお、本研究結果をまとめた書籍刊行計画が令和3年度科学研究費補助金、研究成果公開促進費（学術図書）「イスラーム教育改革の国際比較」として採択され、上記内容において、令和3年度内に出版される運びとなっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 日下部達哉	4. 巻 29-2
2. 論文標題 バングラデシュ農村の経済・社会格差縮減に対する教育開発の貢献 20年間の縦断的研究結果から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Azam Md Golam, Tatsuya Kusakabe	4. 巻 10-2
2. 論文標題 Improving the Efficacy of English Instruction at Qawmi Madrasas(Islamic Seminaries) in Bangladesh	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sage Open	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/2158244020924049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田和浩、日下部達哉	4. 巻 23-1
2. 論文標題 アフリカ・アジアにおける教育政策-実践連携	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際教育協力論集	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部美奈	4. 巻 61
2. 論文標題 インドネシアの公教育における卓越性と公正性 - 国際水準校の創設と廃止に焦点をあてて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 44-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部美奈、神内陽子、アユ・アズハリヤ、エル・アマンダ・デ・ユリ、アズミ・ムフリサフ	4. 巻 67-2
2. 論文標題 インドネシアにおける2013年カリキュラムの施行とその展開過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）	6. 最初と最後の頁 81-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下部達哉	4. 巻 86-4
2. 論文標題 比較事例研究からみる日本型教育の特徴 ベトナム、ザンビア、バングラデシュ、南アフリカの比較から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 92-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mousumi Manjuma Akhtar, Kusakabe Tatsuya	4. 巻 -
2. 論文標題 Low-fee Private Schooling: Poor Households' Struggle to Support Their Children's School Attendance in Unauthorized Colonies in Delhi, India	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of School Choice	6. 最初と最後の頁 1~21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15582159.2019.1686594	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 津久井純・中島悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 アラブ首長国連邦道徳教育現地調査報告書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本国際協力センター	6. 最初と最後の頁 1-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒川智恵美	4. 巻 22-1
2. 論文標題 スーダン共和国の頭脳流出における 高等教育政策改革の一考察 首都ハルツームの若者へのインタ ビューから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際教育協力論集	6. 最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田和浩、日下部達哉	4. 巻 58
2. 論文標題 比較教育学からSDG4を考える：特集の趣旨	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下部達哉	4. 巻 57
2. 論文標題 国内比較研究から『比較教育誌』へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 32-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tatsuya Kusakabe	4. 巻 1
2. 論文標題 Learning Improvement for All: Constructing University-Policy-Practice Partnership	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The report of CICE-UNESCO Joint seminar "The Worldwide Finding Circulation Seminar for Learning Improvement for All"	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mousumi Manjuma Akhtar and Tatsuya Kusakabe	4. 巻 1
2. 論文標題 Low-fee private schooling: Poor households' struggle in supporting their children's school attendance in unauthorized colonies in Delhi India	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The report of CICE-UNESCO Joint seminar "The Worldwide Finding Circulation Seminar for Learning Improvement for All"	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 見原礼子	4. 巻 57
2. 論文標題 二国間比較研究の方法論的再考と現代的意義: ヨーロッパにおける公教育制度の批判的問い直しのために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 51-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島悠介	4. 巻 65
2. 論文標題 アラブ首長国連邦におけるトランスナショナル高等教育の展開 - 国境を越える大学とその可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UAE	6. 最初と最後の頁 7-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mousumi M Akhtar, Tatsuya Kusakabe	4. 巻 49
2. 論文標題 The dilemmas of school choice: do parents really 'choose' low-fee private schools in Delhi, India?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Compare	6. 最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03057925.2017.1401451	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 見原礼子	4. 巻 21
2. 論文標題 ベルギーのライシテと宗教多元性 公教育における二つの論争から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 キリスト教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島悠介	4. 巻 52
2. 論文標題 アラブ首長国連邦における「道徳教育」科目の導入に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪大谷大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 日下部達哉
2. 発表標題 教育投資効果の格差-バングラデシュにおける二つの村の比較から
3. 学会等名 第55回日本比較教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Kusakabe
2. 発表標題 Creating Muslimness in unrecognized Madrasas in South Asia-The case study of Bangladesh
3. 学会等名 The 63rd Annual Conference of Comparative and International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 開沼太郎、小倉雅明、中島悠介、Beh Siewkee
2. 発表標題 母語ではない言語の学習指導に求められる教員の資質と教育行政上の課題
3. 学会等名 関西教育行政学会 2019年度 7 月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 見原礼子
2. 発表標題 セクシュアリティ教育の実践において文化の多様性をどのように考慮するのか オランダの事例から
3. 学会等名 第6回多文化医療研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小山祥子
2. 発表標題 文化としての保育 他国の保育から学ぶ
3. 学会等名 東京都仏教保育協会ゼミナール（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Kusakabe
2. 発表標題 Decadal Transitions of the Institutionalization of the School Education System in Rural Bangladesh: Two cases of Villagers in Remote and Suburban Rural Settings”
3. 学会等名 The 10th INDAS- South Asia International Conference “ Inclusive Development in South Asia ”（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tatsuya Kusakabe
2. 発表標題 Learning Improvement as Policy Formation-Creation, Dissemination and Collaboration
3. 学会等名 The 9th ICLS: The International Conference on Lesson Study (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日下部達哉
2. 発表標題 アジア・アフリカの学習改善実践のための大学-政策-実践パートナーシップ構築と実践事例の研究
3. 学会等名 第三世界の教育研究会2018年度1月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takao Shimizu and Ueru Tanaka
2. 発表標題 The Process for Co-Created Technology for Combat Desertification Collavoration of Afriacan Farmers and Japanese Scientist
3. 学会等名 30th Society for the Advancement of Socio-Economics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 見原礼子
2. 発表標題 ブリュッセルにおける社会融和に向けたモスクの試みと期待 モランベーク地区を事例に
3. 学会等名 第77回ベルギー研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日下部達哉
2. 発表標題 バングラデシュの宗教教育におけるボランティア・アクションと政治 - 『ボランティアする』バングラデシュの人々
3. 学会等名 第19回国際ボランティア学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山英樹
2. 発表標題 欧州ムスリム移民の研究からみる難民問題の構造
3. 学会等名 日本国際理解教育学会課題研究（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 見原礼子
2. 発表標題 オランダのイスラーム学校におけるセクシャリティ教育教材の分析
3. 学会等名 第53回日本比較教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Reiko Mihara
2. 発表標題 Implementing Comprehensive Sexuality Education for Muslim Children in Europe: A Case Study on Islamic Schools in the Netherlands
3. 学会等名 15th ISPCAN European Regional Conference on Child Abuse and Neglect, World Forum (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島悠介
2. 発表標題 エジプト高等教育質保証における国家教育質保証・適格認定機構（NAQAEE）の役割・機能と課題
3. 学会等名 第53回日本比較教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takeo Matsuda, Asuka Kawano, Lithbeth Erikson, Yaka Matsuda
2. 発表標題 Comparative Study of Social Education-Work: Sweden, Uzbekistan and Japan
3. 学会等名 International Conference Social Pedagogy and Social Education: Bridging traditions and innovations (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Hideki Maruyama	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 1-184
3. 書名 Cross-Bordering Dynamics in Education and Lifelong Learning: A Perspective from Non- Formal Education	

1. 著者名 河野明日香	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 129-144
3. 書名 松田武雄編『社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ 日本・アジア・欧米の社会教育職員と地域リーダー』第7章「ウズベキスタンにおける社会教育・福祉・地域づくりをつなぐ地域リーダーの現状と課題」	

1. 著者名 清水貴夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 204-222
3. 書名 澤村信英編『発展途上国の困難な状況にある子どもの教育-難民・障害・貧困をめぐるフィールド研究』第10章 「ブルキナファソの『ストリート・チルドレン』と教育 近代化とイスラーム文化のはざまに生きる子どもたち」	

1. 著者名 中島悠介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 269-277
3. 書名 杉本均・南部広孝編著『比較教育学原論』第16章 「イスラーム圏の教育」	

1. 著者名 日下部達哉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 230-235
3. 書名 大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編著『バングラデシュを知るための65章』 「中等教育と高等教育-教育の質低下と私立大学の勃興」	

1. 著者名 丸山英樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 163-187
3. 書名 杉村美紀ら編『移動する人々と国民国家：ポスト・グローバル化時代における市民社会の変容』 「移民と社会を橋渡しするドイツのNPO」	

1. 著者名 河野明日香	4. 発行年 2017年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 482-483
3. 書名 『コミュニティ事典』 「途上国の教育とコミュニティ」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河野 明日香 (KAWANO Asuka) (10534026)	名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	服部 美奈 (HATTORI Mina) (30298442)	名古屋大学・教育発達科学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	中島 悠介 (NAKAJIMA Yusuke) (60780939)	大阪大谷大学・教育学部・准教授 (34414)	
研究分担者	見原 礼子 (MIHARA Reiko) (70580786)	長崎大学・多文化社会学部・准教授 (17301)	
研究分担者	清水 貴夫 (SHIMIZU Takao) (10636517)	総合地球環境学研究所・研究部・研究員 (64303)	2017-2020年度まで研究分担者、2021年度より研究協力者、2021年度より、京都精華大学准教授

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	モウシュミ マンジュマ アクタル (Mousumi Manjuma Akhtar)	B R A C 大学・Assistant Professor	
研究協力者	黒川 智恵美 (KUROKAWA Chiemi)	広島大学大学院・人間社会科学研究科・博士後期課程院生	元在スーダン日本大使館研究員
研究協力者	丸山 英樹 (MARUYAMA HIDEKI)	上智大学・総合グローバル学部・教授	
研究協力者	小山 祥子 (KOYAMA SHOKO)	駒沢女子短期大学・保育科・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
バングラデシュ	BRAC University			